

# ～ みんなのふるさと別俣 ～

## 「別俣地区資源保全会」

にいがたけんかしわざきしべつまたちく  
(新潟県柏崎市別俣地区)

### 地区のようす

【協定対象面積】 133.0ha (田:130.0ha 畑:3.0ha)

【資源量】 用水路17.8km パイプライン3.3km 排水路7.5km ため池3箇所 農道3.3km

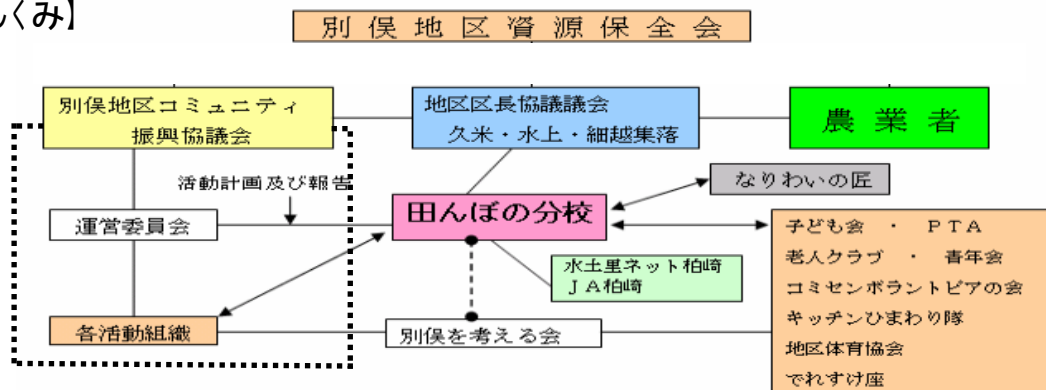
【農家戸数】 74戸 (混住化率:56% 高齢化率:88%)

柏崎市南東部に位置する本地区は、湿地や湿原の良好な自然環境の指標となる“指標昆虫”(環境庁指定)に指定されている、日本一小さいとされるハッチョウトンボが生息する沢地と隣接した水田地帯です。

地区中央には、地域の用水源となる水上川が縦貫しています。平成12年度から地域の発意で「田んぼの分校」を独自に開校し、農業・自然体験活動を地域ぐるみで展開しています。本地区の水路やため池等の農業用施設の保安全管理は、農業者の共同活動により保安全管理していましたが、農業者の高齢・減少化により適正な保安全管理が困難になってきています。

### 『活動組織』～地域みんなで取り組もう！多様な主体が参加した共同活動組織～

#### 【組織のしくみ】



#### ～ 苦労・工夫したところ～

- ・当地区では平成12年から「田んぼの分校」組織を中心に自然・農業体験等の取り組みを独自で実施してきているため、非農業者の参加についての理解や活動組織の設立にあたり比較的容易に合意を得ることができました。
- ・H16年集落の農業アンケート結果において、10年後に約9割の農家が離農する(高齢化、担い手不足)ことが判明し、このままでは農村集落の環境を保つことができないとの危機感を共有しました。
- ・地域の将来像などの夢を論じあえる仲間組織されている「別俣を考える会」がH15年に実施した住民アンケートでは、「花の多い地域にしたい」、「ホタルやトンボの豊かな自然を保全したい」、「若者が地域(ふるさと)に目を向け誇れるものになりたい」、「みんなが生きいきと暮らせる地域にしたい」という声が寄せられました。
- ・これらアンケートの結果を踏まえ、集落内の多様な主体が参画する活動組織を設立させました。
- ・活動組織の役員を担い手となる地域の若手層に任せため、活動組織代表者の決定に時間を要しました。

### 『活動計画』～活動組織が策定する夢のある共同活動計画～

#### 1. 共同活動により目指す地域振興の方向や目標

本地域では、子どもたちが地域の人や自然に関わりながら、ふるさとに誇りを持つことが地域の活性化につながることを理念としており、平成12年度に地域住民が独自に「田んぼの分校」を開校し、農業体験や地域の環境美化等の活動の主体となって子供会や地区コミュニティとの連携を図り、農家を中心とする地域住民が一体となって取り組んでいます。

本対策における生産資源と農村環境資源の保安全上活動を併せた取組により、ほたるやハッチョウトンボ等の生態系保全や自然再生活動をさらに展開し、「地域みんながいきいきと張り合いを持って暮らせること」を目指し、ゆとりと潤いと安らぎに満ちた農村アメニティの実現に向けて取り組みを推進します。